



# 学校だより

No.5 10月号

令和3年10月1日

横浜市立洋光台第四小学校

～ 手を取りあい ぐんぐんのびる しんめの子 ～

ホームページもご覧ください。www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yokodai4

## タブレット端末を利用して思うこと

副校長 山口 高弘

秋の声が聞こえる時期となりました。9月21日は中秋の名月であり、きれいな満月が夜空を照らしていました。非常事態宣言下の8・9月でしたが、子どもたちは日々元気に学校に登校しています。各教室を覗いてみると、机の上のタブレットを操作している姿が見られました。GIGAスクール構想のもと、一人一台ずつタブレットが配布されました。本校は、夏休み前にGIGA開きを行い、少しずつタブレットの使い方を練習していきました。

7月のGIGA開き当時は、タブレットの操作やロイロノートのログインなどで戸惑う姿がありましたが、この短縮授業期間で授業や宿題を通して、タブレットの扱いがとても上手になりました。例えば、低学年は、タブレットを使って作品を写真で送ったり、自分の歌声を送ったりしていました。高学年は、ロイロノートのカードを利用して、自分の考えを提示したり友達の考えとつなげたりしています。子ども一人ひとりの学びや思考の視覚化が行われ、自分の考えを友達の考えと繋げていく様子がありました。授業を受ける子どもたちの表情のなかに、「自分だけではない」「同じ考えの人がいる」などの安心感や自信が見られました。

今までの授業でも担任が子どもたちの発言やノートの記述を取り上げ、話し合いや板書で同じようなことを行ってきました。しかしこのタブレット導入により、より視覚化が進み、知識のネットワークの広がりを作り上げていくことができるように思えます。子どもたちの柔軟な発想、多様な表現を生み出す学習ツールとしての有効性を感じました。

タブレットを利用した学習において気になる部分もあります。まず、文字による伝達の難しさがあります。例えば「まじめだね」や「個性的だね」という言葉で相手を褒める言葉として使用していても、受け手としては嫌な言葉として受け取り、トラブルに発展する危険性があります。対面でないが故の、便利で文字だけの伝達だから誤解が生じる場面です。その他に、町田市のタブレット関連での事件で示されているように、デジタルであるが故の匿名性や個々の責任の薄さなどが挙げられます。

タブレットなどはあくまでも「道具」であり、自分の学習を深めたり考えを表現したりするツールであると考えます。とても便利なツールであるからこそ、情報活用能力（情報モラルを含む）の育成が大切になります。例えば、多様な情報の中から判断し正しい情報（自分に都合の良い情報ということではない）を得て、利用する力の育成などが必要になってきます。そのためにも、ルールが存在（自分が不快と感じることをしない→相手の尊重）や情報社会での責任、犯罪被害を含む危険を回避することを子ども一人ひとりが学校や家庭、地域の中で学んでいくことが重要です。学校では、ケータイ安全教室や情報モラル教育を取り入れています。ご家庭でもルールやモラルについてお話をいただければと思います。この時期だからこそ、恐れずしかし危険性を知りつつ、安全に利用できるように、学校と家庭で情報活用能力を育てていくことが大切になってきます。保護者の皆様のご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

リーフレット「学校と家庭で育む情報モラル」

<http://inwl.office.ycan/b/ky/content/0405johomoraru01.pdf>

動画「学校と家庭で育む情報モラル」(youtube)

<https://www.youtube.com/watch?v=RwZinYPKSDQ>